くまびょう NEWS

2008 127号

くまびょう NEWS
2008年 1月1日
[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

新年の御挨拶
『心新たに』

国立病院機構熊本医療センター
院長　宮　﨑　久　義

新年あけましておめでとうございます。

旧年は激動の年でありましたが、当院にとりましては病院本館の建築に着工でき、新しい歩みをはじめることができました。この間に賜りました多面にわたる御指導、御支援に心より感謝し、御礼を申し上げます。

新しい年を迎え、職員一同心を新たにし、更に良質の医療を提供できるよう、努めてまいります。

特に救命救急、先進医療をはじめとする診療機能の向上、地域の医療機関との連携、教育・研修、臨床研究・治験、そして国際医療協力に取り組んでまいります。

1年半後には、新病院が竣工する予定です。諸先生方のご期待に添える医療機関でありたいと計画をすすめています。

本年は子の年、干支の最初の年であり、繁栄の年ともいわれます。

各位の御多幸と御繁栄をお祈り申し上げます。

2008年　元旦

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります

VOICE 登録医の声

医療連携への雑感

石原循環器科内科医院
院長　石原　章

10年ひと昔と言われますが、現在、私の臨床の入口と基本の教育を受けたのが、国立熊本病院（現国立病院機構熊本医療センター）の循環器科です。しかし、これも30年以上前の事、現状とはいろいろな面でずいぶん状況が違っていました。

例えば、救急患者への対応を救急車搬送数から見れば、その当時（私の記憶では）１年間100台未満の時代でした。

しかし、現在では年間7,000台以上になっており、その変身ぶりには目を見はるものがあり、院長並びに全職員の御努力の賜物と思われます。

また、1996年１月より、熊本市医師会と国立熊本病院との間で「開放型病床　共同指導」システム（医師会病院をモデルにして）が開設され、これを利用されている登録医数は、現在1,000名以上（熊本市内A会員　約580名以上、その他　熊本市周辺の医師　約420名以上）に及んでいます。

ところで、このような医療環境の中で、私達開業医が患者様を紹介する時、まず患者様本人とその家族に希望紹介医療機関を尋ね、次に紹介状を持たせると云う手順になると思います。又、搬送救急車でも搬送先の確認が行われるはずです。このように、紹介先、並びに搬送先を決めるのは、そこを受診する「患者様」自身である事を忘れてはならないと思います。

救急搬送数が年間100台未満の時代より、年間7,000台以上になっている事は、地域医療の中で「かかりつけ医」並びにその地域の患者様からの高い評価を得ている事に他ならない事実だと思います。折しも、約２年後には新しく生まれ変わった新築の国立病院機構熊本医療センターが完成します。もちろん外来受診する時に「あの坂道を登らないでよい病院」へと変身する事により、「かかりつけ医」、「紹介医」と「患者様」の立場でも、充分満足な評価が得られるのは確実です。

同時に、地域医療の中で、介護・福祉絡みの医療が求められつつある現状の一例として「24時間在宅支援診療所」がありますが「かかりつけ医」と「コメディカルの協力」、「中核病院」とが一体となった連携が必須の（スポーツに例えれば、野球やサッカー等の様な）トータル的なチームワーク（個人対個人即ち点と点ではなく、面と面の連携）の姿が求められているような感じ（私感）がします。

いずれにしても、国立病院機構熊本医療センターを受診する際に「あの坂道を登る」のイメージをなくすだけでなく、さらなる評価が得られるために、医療連携に伴うハード、ソフト面で、ハードルが少なくなるように検討されていると思いますが、今まで以上に多くの会員の先生、コメディカルの方々の活発な御意見を頂きながら、新しい国立病院機構熊本医療センターの早速な完成を期待し、同時に祈念致します。

会報の貴重なページを頂き、宮﨑院長に御礼申し上げます

第24回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催予定のご案内

標記連絡会につきましては下記の日程を予定しています。正式には連絡協議会の決定を待って別途ご案内申し上げます。

日　時　：　2008年２月19日（火）19時～21時（予定）
場　所　：　くまもと県民交流館パレア
〒860-8554　熊本市手取本町8-9テトリア熊本ビル　TEL　096-355-4300（代）
内　容　：　1．紹介症例の呈示
2．総合討論
3．特別講演　（交渉中）

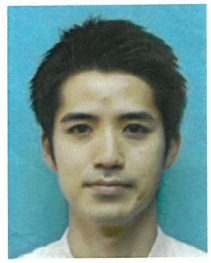
〈連絡先〉国立病院機構熊本医療センター管理課（西田、牧野）
〒860-0008 熊本市二の丸1-5　電話　096-353-6501　内線390

2008 診療科紹介(19)

感覚器センター 皮膚科

加口　敦士
皮膚科一般
（皮膚疾患、皮膚腫瘍）
日本皮膚科学会認定専門医

伊方　敏勝
皮膚科一般、皮膚科救急



新森　大祐
皮膚科一般、皮膚科救急

診療内容と特色

当院皮膚科は入院を要する患者様の紹介を受け、いつでも受け入れできる体制をとっています。特に、中毒疹、水疱症（天疱症、類天疱瘡）などの全身管理が必要な方の入院加療を行っています。また、帯状疱疹や蜂窩織炎などの感染症の方の入院加療も行っています。

Narrow band UV 照射装置を導入し、炎症性角化症（尋常性乾癬など）で難治の方の治療を進めています。また、昨年度導入しましたスーパーライザーにより、皮膚潰瘍や帯状疱疹後神経痛など各種皮膚疾患の治療を多岐にわたって行っています。手術も行っていますが、疾患によって形成外科（2004年10月新設）に依頼しています。

皮膚科疾患は皮疹の治療のみではなく、適切な全身的な治療を必要とするものも多いため、当院では総合病院である特徴を十分に利用して他科との連携も図り患者さまの治療にあたっています。

診療実績

外来での新患数は、2003年度で1,775名（月平均148名）、2004年度で1,972名（月平均164名）、2005年度で1,564名（月平均130名）、2006年度で1,595名（月平均133名）となっています。紹介率は約41％です。複数科にわたる方が多いため、どうしても再来患者様が増えてきますが、近くの医（病）院での治療を勧めているところですので、継続診療につきましてはご協力のほどお願い致します。

入院患者数につきましては、2003年度388名、2004年度386名、2005年度335名、2006年度202名、月平均で約17名となっています。手術は、陥入爪根治術、皮膚良性ならびに悪性腫瘍切除術、植皮術などを主に行っています。手術はデイサージャリーを中心に行っております。

研究実績

当科の臨床的研究テーマは、「皮膚腫瘍患者の治療法の選択による QOL」および「皮膚感染症」であります。

また、「爪白癬の内服治療」につきましても熊本大学医学部附属病院などと協力のもと研究を行っています。

ご案内

皮膚科へのご紹介は診療情報提供書（FAX 送信票）を FAX して頂くか、お急ぎの場合は電話で連絡ください。

FAX 送信票は096－353－6501（代）（内線800）へお申し付け頂ければお届けします。時間外は救命救急センターで対応致します。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。
国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス
http：//www.hosp.go.jp/~knh/

医学シリーズ No.151　消化器科（No.13）

最近のトピックス

肝がん治療における造影超音波のススメ
―ソナゾイト造影超音波併用ラジオ波焼灼療法―

消化器病センター
消化器科医長兼
超音波診断室長
杉　和洋

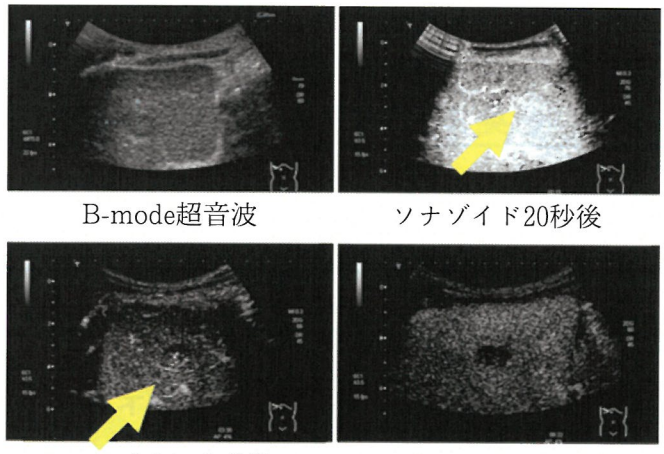
現在、早期に発見された肝がんに対しては、侵襲の少ない超音波ガイド下ラジオ波焼灼療法（RFA）が普及してきています。これは肝切除に比べ、肝予備能の低下した例や複数の区域に多発する例に繰り返し行えるといった利点があるからです。当院では2001年12月に導入し延べ約180例の治療を行ってきました。

しかし治療に関する問題点も少なからず存在します。第1に超音波で腫瘍が明瞭に描出される必要があります。これは治療を行うに当たり必須条件となります。第2に十分な焼灼域を確保したつもりでも、局所再発が起こることがあります。CTで確認されても通常の超音波検査でそれが同定困難な場合があり、再治療に難渋します。これらに対してこれまで第1世代超音波造影剤であるレボビストの併用やCT画像データを超音波検査に組み込んだRVS（Real-time Virtual Sonography）による治療を試みましたが決して満足のいくものではありませんでした。

2007年1月に第2世代超音波造影剤であるソナゾイド（Sonazoid）が認可され、当院では4月に採用されました。リン脂質膜小胞内にペルフルブタン（Perflubutane）ガスを含む静脈内注射薬で、第1世代超音波造影剤に比較して多くの利点があります。まず調整が容易であり室温で2時間まで保存可能なことです。これまでは調整後10分以内に使用しなければならず、検査が慌ただしいものでした。また前世代の造影剤では一断面において高音圧で破壊された小胞からでてきた気体成分を疑似ドプラー信号として一定時間に間歇的に観察するのに対し、本剤では低音圧を用い小胞を破壊することなく検査を行うため、リアルタイムで連続的な観察ができ、肝臓全体の観察が可能です。必要ならば追加投与により繰り返し検査ができます。最大の利点はその挙動の違いです。造影CTは、肝動脈、門脈、類洞（実質）および肝静脈といった時間軸に対する血管内での分布変化を造影効果でみるにすぎませんでした。ソナゾイドはさらに肝臓全体のクッパー細胞（肝臓における網内系細胞）に取り込まれ、それが10分から60分あるいはそれ以上の長時間持続する特性を示します。肝がんはクッパー細胞を欠くことが知られており、後期相での欠損像により通常の超音波検査では診断が困難だった早期肝がんの確定診断や、描出困難だった小肝がんの同定を可能にします。また腫瘍内のクッパー細胞分布の評価を可能にし、前がん病変や非腫瘍性病変の鑑別診断に有用です。

これらの性質を利用して最近当科では肝がんに対するRFA治療のほぼ全例にソナゾイド造影を併用しています。初回治療例では目的とする腫瘍の同定と肝臓全体の観察により他部位病変の有無を確認し、さらに局所再発例では早期相における濃染像を目標に治療します。低音圧のため非腫瘍部分が不鮮明で、通常の超音波検査よりフレームレートが遅いことは否めませんが、RFA穿刺電極の視認性は十分です。追加投与すれば血管が描出されるため、穿刺ラインを考慮することにより損傷のリスクが回避されます。

今後は、現在造影CTで行っている治療効果判定を造影超音波で行うことの検討を考えています。また症例の集積と外来造影検査件数の増加を図りたいと考えています。肝がん症例がありましたなら、当科肝臓専門外来にご紹介頂きますようお願い致します。



肝がん治療における造影超音波

第13回 国立病院機構熊本医療センター医学会開催のご案内

公開の医学会です。多くの皆様のご参加をお待ち致します。

第１日目　１月19日（土）

開会の辞　8：50～ 9：00　宮﨑久義（国立病院機構熊本医療センター院長）

一般演題Ⅰ「外科系１」　9：00～10：00　座長：栗﨑貴・清田喜代美

Ⅰ－１　CTにて偶然発見された胃消化管間質腫瘍（GIST）の１例
外科　柳澤哲大、保坂征司、田中秀幸、藏重淳二、山本謙一郎、田中真一郎、本田志延、大堂雅晴、栗﨑貴、片渕茂、池井聰

Ⅰ－２　胆嚢癌を合併した重複胆管の１例
外科　蔵重淳二、片渕茂、田中秀幸、山本謙一郎、保坂征司、田中真一郎、本田志延、大堂雅晴、栗﨑貴、池井聰

Ⅰ－３　非閉塞性腸間膜虚血症で生存を得た１例
外科　万江由希子、田中秀幸、蔵重淳二、山本謙一郎、保坂征司、田中真一郎、本田志延、大堂雅晴、栗﨑貴、片渕茂、池井聰

Ⅰ－４　浣腸による直腸損傷の１例
外科　田中秀幸、本田志延、蔵重淳二、山本謙一郎、保坂征司、田中真一郎、大堂雅晴、栗﨑貴、片渕茂、池井聰

Ⅰ－５　保存的加療により回復した門脈気腫の１例
外科　坂本慶太、田中秀幸、蔵重淳二、山本謙一郎、保坂征司、本田志延、田中真一郎、大堂雅晴、栗﨑貴、片渕茂、池井聰

Ⅰ－６　後腹膜腔に発生した平滑筋肉腫の１例
産婦人科　舛田哲朗、伊藤史子、園田直子、永井隆司、三森寛幸

Ⅰ－７　院内にて発症した精巣梗塞の１例
泌尿器科　山口隆大、仲西寿朗、瀬下博志、陣内良映、土岐直隆、菊川浩明
消化器科　片山貴文
血液内科　榮達智
植木町国民健康保険植木病院　定永恒明

一般演題Ⅱ「外科系２」　10：00～11：00　座長：橋本伸朗・田中富美子

Ⅱ－１　当院におけるステントグラフト内挿術の経験
心臓血管外科　岡本健、毛井純一、岡本実

Ⅱ－２　抗血小板/凝固剤内服中の患者における頭蓋内血腫に対する手術適応について
脳神経外科　吉永豊、吉里公夫、大塚忠弘

Ⅱ－３　気管挿管困難時におけるエアウェイスコープ（AWS）の有用性
麻酔科　藤末昂一郎、瀧賢一郎、上妻精二、田尻晃彦、江﨑公明

Ⅱ－４　大腿骨頚部内側骨折に対する骨接合術の検討
整形外科　砥上若菜、中馬東彦、前田智、福元哲也、橋本伸朗、野村一俊

Ⅱ－５　ステロイド性大腿骨頭壊死に対する大腿骨頭回転骨切り術後の理学療法の経験
リハビリテーション科　永田光二郎、榮彩人、西島卓生
整形外科　野村一俊、福元哲也

Ⅱ－６　当院における廃用症候群患者の現状
リハビリテーション科　榮彩人、永田光二郎、西島卓生

Ⅱ－７　当院における理学療法の実際
リハビリテーション科　西島卓生、永田光二郎、榮彩人

一般演題Ⅲ「看護・教育」　11：00～12：00　座長：豊永哲至・田代清美

Ⅲ－１　ＩＣＵにおける人工呼吸器関連肺炎（ＶＡＰ）の現状調査
ＩＣＵ　児島留美、森マキ、宮本絵里、福成千里、西辻美佳子、徳永雄規

Ⅲ－２　太白ゴマ油を用いた口腔内保湿ケア
別館３病棟　鶴田道子、森山美江、宮崎仁美、坂梨真美、荒田和江、下地美千代

Ⅲ－３　新膀胱形成術を受けた患者の心理的、身体的苦痛及び対処行動
別館６病棟　内田尚子、木村友香、甲斐田由美、堤令子

Ⅲ－4　**看護学生が受け持ち患者の初回訪室時に行なう観察**
看護学校　原野裕子、荒木美佐子、豊田恵美、武居映子、守嶋絹、石川美智、安浪小夜子

Ⅲ－5　**新人看護師のメンタルヘルスケア～入職後1ヶ月から6ヶ月までのストレス指数の変化～**
副看護師長　西辻美佳子、下村智美、井戸誉子、森山ひろみ、西岡恵子、南利朱美
新人教育グループ

Ⅲ－6　**接遇教育の効果－参画型研修を取り入れて－**
副看護師長　荒田和江、山口幹江、大野智和、岩井幸
接遇グループ

Ⅲ－7　**クリティカルパスのバリアンス調査～DPCの収支改善～**
副看護師長　白石誠、山下美香、香月麗、池田としえ、大岩眞由美
経営改善グループ

昼　食（12：00～13：00）

特別講演　13：00～14:00　座長：河野文夫

「日本の医療行政について」
国立病院機構本部医療部長　山本光昭　先生

一般演題Ⅳ「内科系1」　14：00～15：00　座長：日髙道弘・黒田かえで

Ⅳ－1　**血栓性血小板減少性紫斑病の初期診断の重要性**
血液内科　榊田光倫、松井崇浩、河北敏郎、井上佳子、榮達智、武本重毅、長倉祥一、日髙道弘、清川哲志、河野文夫
腎臓内科　宮中敬
国立療養所恵楓園　塚本敦子

Ⅳ－2　**低悪性度リンパ腫に対する治療中に出現した中枢神経系病変**
血液内科　徳永琢也、江藤弘二郎、河北敏郎、井上佳子、武本重毅、長倉祥一、日髙道弘、清川哲志、河野文夫

Ⅳ－3　**顆粒球肉腫に対する自己移植併用大量化学療法の検討**
血液内科　松井崇浩、榮達智、日髙道弘、清川哲志、河野文夫
外科　山本謙一郎
臨床研究部病理研究室　村山寿彦
岡部病院　岡部正人

Ⅳ－4　**造血幹細胞移植における患者参画型クリティカルパスの使用効果**
西1病棟　船場景子、中谷優子、水浦友香子、山下美香、黒田かえで

Ⅳ－5　**造血幹細胞移植患者に対するNST介入の効果**
栄養管理室　藤崎まなみ、村上智子、大山明子、浅井和子
看護部　黒田かえで
薬剤科　橋本未雷
血液内科　榮達智、長倉祥一、日髙道弘、清川哲志、河野文夫

Ⅳ－6　**食物アレルギー（FA）児に対する食物負荷試験について**
小児科　緒方美佳、竹内芙実、楠本優、森永信吾、髙木一孝

Ⅳ－7　**小児食物アレルギー負荷試験の取り組みについて**
栄養管理室　村上智子、浅井和子、大山明子、藤崎まなみ
看護部　森田恵
小児科　緒方美佳、髙木一孝

一般演題Ⅴ「内科系2」　15：00～16：00　座長：清川哲志・徳永雄規

Ⅴ－1　**造血幹細胞移植患者への専門的口腔ケアと肺炎発症についての臨床的検討**
歯科口腔外科　片岡奈々美、佐藤みやこ、蔵本和咲、児玉圀昭

Ⅴ－2　**緊急気管支鏡検査が診断に有用であったカリニ肺炎の症例**
呼吸器内科　金澤侑右子、森松嘉孝、田尻守拡

Ⅴ－3　**緊急心嚢ドレナージにより播種性血管内凝固症候群の急速な改善をみた非小細胞肺癌による心タンポナーデ症例**
呼吸器内科　肥後直倫、森松嘉孝、田尻守拡、門脇嘉宣
心臓血管外科　岡本実
榎本内科医院　榎本勝人

Ⅴ－4　**放射線併用化学療法後、小腸多発転移を来たした肺平滑筋肉腫疑い例**
呼吸器内科　松山薫、森松嘉孝、田尻守拡、高橋亜紀、金澤侑右子
外科　大堂雅晴
手島内科　手島安廣

V－5　**歯肉炎を契機に粘液水腫昏睡に至った1例**
内分泌代謝内科　山田周、市原ゆかり、児玉章子、豊永哲至、東輝一朗
救命救急部　原田正公、橋本聡、吉岡明子、高橋毅

V－6　**当院における脳低温治療の現状と今後**
救命救急部　原田正公、橋本聡、児玉章子、吉岡明子、瀧賢一郎、高橋毅

V－7　**当院における高気圧酸素治療の現状と問題点**
臨床工学技士　田代博崇、新木信治、竹本勇介、川内直
救命救急部　高橋毅
麻酔科　江﨑公明

一般演題Ⅵ「救急医療」　16：00～17：00　座長：金子忠明・城雪子

Ⅵ－1　**プレホスピタルケアにおける除細動の救命効果とAEDの普及**
熊本市消防局救急課　井上雅代、後藤達広、柴田和美、金子忠明、池田光隆

Ⅵ－2　**救急救命士の気管挿管とアドレナリン投与の救命効果**
熊本市消防局救急課　上長禎、後藤達広、柴田和美、金子忠明、池田光隆

Ⅵ－3　**日本版救急蘇生ガイドライン（G2005）の効果**
熊本市消防局救急課　田村悟史、後藤達広、柴田和美、金子忠明、池田光隆

Ⅵ－4　**骨盤骨折により仮性動脈瘤を形成し骨盤内動脈塞栓術を要した1例**
救命救急部　江藤弘二郎、橋本聡、原田正公、児玉章子、吉岡明子、高橋毅

Ⅵ－5　**国立病院機構熊本医療センターにおける精神科救急および身体合併症医療について**
精神科　吉住和晃、酒井透、橋本聡、山下建昭、渡邉健次郎

Ⅵ－6　**左上眼瞼内異物の1例**
放射線科　清水千華子、荒木裕至、富高悦司、浅尾千秋、吉松俊治
眼科　青木浩則

Ⅵ－7　**CTにて早期診断を得た多発性骨髄腫の1例**
放射線科　北田真己、富高悦司、荒木裕至、浅尾千秋、吉松俊治
血液内科　井上佳子
呼吸器内科　田尻守拡

一般演題Ⅶ「検査・診断」　17：00～18：00　座長：西本博美・吉松俊治

Ⅶ－1　**ワークステーションを使用した3D画像の実際**
放射線科　荒木裕至、富高悦司、浅尾千秋、吉松俊治

Ⅶ－2　**3D画像処理装置の運用と問題点**
放射線科　豊永真紀子、今田美香、泉登久、松永博、西本博美

Ⅶ－3　**NATIVE法(W.I.P)による下肢動脈描出の検討－三分枝以下の描出について－**
放射線科　市川和幸、長岡里江子、酒本司、有迫哲朗、松永博、西本博美

Ⅶ－4　**非造影MRAによる腎動脈描出の試み**
放射線科　長岡里江子、市川和幸、酒本司、松永博、西本博美

Ⅶ－5　**子宮頸癌に対する化学療法、放射線治療後に小腸転移を来たした1例**
放射線科　東野哲志、富高悦司、荒木裕至、浅尾千秋、吉松俊治
産婦人科　永井隆司
外科　大堂雅晴
臨床研究部病理研究室　村山寿彦

Ⅶ－6　**膿胸関連リンパ腫（pyothorax-associated lymphoma）の1例**
放射線科　中島亮、荒木裕至、富高悦司、浅尾千秋、吉松俊治
血液内科　榮達智

Ⅶ－7　**当院における医用画像表示用モニタ管理の現状と問題点**
放射線科　堀上英昭、有迫哲朗、松永博、西本博美

第2日目　1月20日（日）

一般演題Ⅷ「外科系3」　9：00～10：00　座長：田嶋哲・森田恵

Ⅷ－1　**下口唇巨大血管奇形の治療経験**
形成外科　東野哲志、池山有子、大島秀男
下村皮ふ科クリニック　下村洋

Ⅷ－2　**筋膜移植による眼窩内壁骨折の治療**
形成外科　池山有子、大島秀男
眼科　青木浩則、高野晃臣、久高久美子

Ⅷ－3　先天性脈絡膜欠損に後部ぶどう腫を伴った1例
眼科　小野薫、久高久美子、高野晃臣、青木浩則
村本病院　村本一浩

Ⅷ－4　喉頭亜全摘手術により音声機能を温存し得た1例
耳鼻咽喉科　竹村考史、羽馬宏一、野口聡、緒方憲久

Ⅷ－5　アイゴ（バリ）刺傷を契機としたガス壊疽の1例
皮膚科　新森大佑、伊方敏勝、加口敦士

Ⅷ－6　早期手術により救命できたVibrio、Vulnificus感染症による壊死性筋膜炎の1例
救急救命部　松山薫、徳永琢也、原田正公、橋本聡、児玉章子、吉岡明子、高橋毅
皮膚科　加口敦士
川口病院　櫻井幸一

Ⅷ－7　救命救急センターに搬入された急性期脳血管障害患者におけるメタボリックシンドローム関連の調査研究
救急救命部　高橋毅、原田正公、橋本聡、吉岡明子
内分泌代謝内科　市原ゆかり、児玉章子、豊永哲至、東輝一朗
神経内科　幸崎弥之助、田北智裕、俵哲
脳神経外科　吉永豊、吉里公夫、大塚忠弘

一般演題Ⅸ「内科系3」　10：00～11：00　座長：山崎雅史・下地美千代

Ⅸ－1　H.pylori除菌後も再発を繰り返す難治性十二指腸潰瘍の1例
消化器科　坂田和也、押方慎弥、松山太一、片山貴文、中田成紀、前田和弘、杉和洋

Ⅸ－2　TS-1+CDDP24時間持続点滴併用療法が著効した進行胃癌の1例
消化器科　値賀正彦、柳澤哲大、片山貴文、押方慎弥、松山太一、中田成紀、前田和弘、杉和洋

Ⅸ－3　内視鏡的に除去し得た、十二指腸傍乳頭憩室内腸石の1例
消化器科　門脇嘉宣、中田成紀、松山太一、片山貴文、押方慎弥、前田和弘、杉和洋

Ⅸ－4　レニン－アンギオテンシン系阻害薬が有効であった肥満関連腎症の1例
腎臓内科　宮里賢和、宮中敬、富田正郎
千場内科クリニック　千場文江

Ⅸ－5　急激な腎機能障害を呈し、ステロイド療法が著効した薬剤性腎障害の1例
腎臓内科　大平さおり、宮中敬、富田正郎
中路医院　中路丈夫

Ⅸ－6　左室内圧較差を生じたたこつぼ型心筋症の1例
循環器科　平田快紘、福嶋隆一郎、原田恵美、田中朋子、宮尾雄治、藤本和輝

Ⅸ－7　脳動脈瘤を有し右片麻痺及び高度の意識障害にて発症した50歳女性
神経内科　樫木仁、万江由希子、幸崎弥之助、俵哲、田北智裕

前年度優秀発表者表彰　11：00～11：10　宮﨑久義（国立病院機構熊本医療センター院長）

一般演題Ⅹ「システム・連携」　11：10～12：10　座長：木村圭志・久田　正直

Ⅹ－1　当院におけるソーシャルワーカー業務の意義に関する考察
企画課医事ＭＳＷ　前川はづき、藤本順子、橋本珠莉、木下良子

Ⅹ－2　治験協力体制整備と逸脱防止への取り組み－電子カルテにおける治験用検査セットの導入－
治験センター　湊本康則、林淳一郎、久保美紀子、市下由美、冨澤達、河野文夫

Ⅹ－3　外来化学療法における疑義照会から見た安全管理の評価
薬剤科　橋本未雷、三角紳博、冨澤達

Ⅹ－4　ペグインターフェロン・リバビリン併用療法クリティカルパスチェックシートを用いた薬剤管理指導
薬剤科　竹田清子、平池美香子、吉冨久徳、冨澤達

Ⅹ－5　外来結果報告遅れ（催促）「ゼロ」を目指して
臨床検査科　佐々智子、西原幸治、久田正直

Ⅹ－6　外来採血時間待ち短縮へ向けての取り組み
臨床検査科　吉原正保、西原幸治、久田正直

Ⅹ－7　病理検査室における検体取り違え防止対策
臨床検査科　竹下博士、佐々木道太郎、吉野歩、正代敦子、船瀬将一、久田正直
臨床研究部病理研究室　村山寿彦

総評・閉会の辞　12：10～12：20　池井聰（国立病院機構熊本医療センター副院長）

平成19年度　院内感染対策研修会のご案内

開 催 日：2008年1月23日（水）～25日（金）
開催場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

日 程	時 間	講 義 内 容		
1月23日(水)	12：00～	受付開始		
	13：00～	オリエンテーション		
	13：10～	開会式 挨 拶　国立病院機構九州ブロック （国立病院機構熊本医療センター院長）	担当理事	宮﨑 久義
	13：20～	エビデンスに基づく院内感染対策－標準予防策、感染経路別対策の考え方 国立病院機構九州ブロック	医療課長	芳賀 克夫
	14：05～	MRSAと多剤耐性緑膿菌について 大阪大学医学部附属病院	感染制御部教授	朝野 和典
	15：00～	医療従事者感染防止対策 国立病院機構名古屋医療センター	感染症科医長	間宮 均人
	15：45～	感染性腸炎・食中毒について（主に、ノロウイルス対策について） 国立病院機構福岡病院	小児科医長	岡田 賢司
	16：30～	バンコマイシン薬剤耐性菌の現状と予防について 国立感染症研究所	細菌第二部研究員	鈴木 里和
1月24日(木)	09：00～	疥癬の院内感染対策 国立病院機構熊本医療センター	皮膚科医長	加口 敦士
	09：35～	国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌サーベイランスについて 国立病院機構熊本医療センター	副薬剤科長	西野 隆
	10：10～	院内感染起因菌の分子疫学 国立国際医療センター研究所	感染症制御研究部長	切替 照雄
	11：10～	抗菌薬の適正使用 佐賀大学医学部附属病院	感染制御部長	青木 洋介
	12：00～	昼 食		
	13：00～	－国の事業から－ 厚生労働省医政局指導課	医療放射線管理担当官	徳本 史郎
	13：50～	インフルエンザ対策 国立病院機構仙台医療センター	臨床研究部ウイルス室長	西村 秀一
	14：40～	手術部位感染対策 熊本赤十字病院	国際医療救援副部長兼救急副部長	高村 政志
	15：30～	結核の院内感染対策　－保健所の立場から－ 熊本市保健所　感染症対策課	課長補佐	佐藤龍一郎
	16：20～	人工呼吸器関連肺炎対策 聖マリア病院	感染制御部長	本田 順一
1月25日(金)	09：00～	内視鏡の管理と消毒 国立病院機構熊本医療センター	消化器科医長	杉 和洋
	09：40～	血管カテーテル由来血流感染対策 国立病院機構熊本医療センター	内科医長	日髙 道弘
	10：20～	滅菌と消毒 山口大学医学部附属病院	薬剤部准教授	尾家 重治
	11：15～	国立病院機構長崎医療センターにおける院内感染対策の現状 国立病院機構長崎医療センター	感染管理認定看護師（副看護師長）	松本みゆき
	12：05～	昼 食		
	13：10～	福岡大学病院における院内感染対策と感染症科による診療援助 福岡大学病院　腫瘍・血液・感染症内科	講師	高田 徹
	14：10～	国立病院機構熊本医療センターにおける院内感染対策の現状 国立病院機構熊本医療センター	感染管理認定看護師	吉田真由美
	15：10～	全体質疑・応答 （司 会）福岡大学病院　腫瘍・血液・感染症内科	講師	高田 徹
		国立病院機構熊本医療センター	副院長	河野 文夫
		（コメンテーター）尾家重治、松本みゆき、吉田真由美、日髙 道弘、杉 和洋		
	16：45～	閉講式　国立病院機構熊本医療センター	副院長	池井 聰

本研修は国立病院機構本部九州ブロック事務所の主催によるものですが、席に若干の余裕がありますので国立病院機構外からの一般参加も受付します。希望される方は往復ハガキにて1月17日（木）までに下記宛お申し込み下さい。

〈問い合わせ先〉国立病院機構熊本医療センター管理課（西田・牧野）
〒860-0008　熊本市二の丸1-5　TEL096-353-6501（内線390）

ICLS講習会開催報告および今後の参加募集について

救命救急センター
部 長
高 橋　毅

この度、2007年12月9日（日）に、ICLS講習会が地域医療研修センターで開催され、当院の医師6名が受講致しました。ICLS（Immediate Cardiac Life Support）とは、突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきであるかという医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。特に「最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。講義室での講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。

今回行われましたICLS講習会も日本救急医学会が臨床研修医に受講を勧めている内容であり、日本救急医学会の認定を受けております。講師は救命救急センターの瀧賢一郎医長と吉岡明子医師が中心となり、AED（自動体外式除細動器）を使った一次救命処置、気道管理法、状況に応じた適切な薬剤の使用等について熱心に指導をして頂きました。

当院は臨床研修指定病院であり、今後も研修医を中心としたICLS教育を行ってまいりますが、内科認定医のように各種認定医・専門医を受験する際にICLSの受講が必須とされている学会があります。もし登録医の先生方で、ICLSの受講が必要となり参加を希望される場合は、高橋までご連絡下さい。

どうぞ宜しくお願い致します。

バッグバルブマスクによる人工呼吸

気　管　挿　管

チームによる蘇生
（人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、薬物投与）

医学生の為の病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課（TEL096-353-6501）迄ご連絡下さい。

詳細については：http://www.hosp.go.jp/~knh/ まで

研修のご案内

第60回　特　別　講　演（無料）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2008年1月16日(水)19：00～21：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

座長　国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫
国立病院機構名古屋医療センター院長　堀田　知光

「悪性リンパ腫に対する治療開発の動向」

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第77回　三　木　会（無料）
（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］

日時▶2008年1月17日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1.『劇症1型糖尿病の1例』
国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科　市原ゆかり、児玉章子、豊永哲至、高橋　毅、東輝一朗
2.『重篤な低血糖脳症を来たした糖尿病の1例』
国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科
宮里賢和、豊永哲至、大平さおり、市原ゆかり、児玉章子、高橋　毅、東輝一朗
3.『ステロイド治療前後でインスリン分泌能を観察し得た自己免疫性膵炎合併糖尿病の1例』
NTT西日本九州病院　小野恵子、宮瀬志保、森下祐子、藤山重俊、笹尾　明、西　潤子、宮尾昌幸

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長　東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線705

第108回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶2008年1月21日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．呼吸器内科による胸部X線写真供覧　国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科　田尻　守拡
2．持ち込み症例の検討
3．症例呈示「クリオグロブリン血症で発症した悪性リンパ腫の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病科　松井　崇浩
4．ミニレクチャー「ウィルス性肝炎に対するインターフェロン療法の最新知見」
国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科　片山　貴文

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第89回　総合症例検討会（CPC）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2008年1月23日(水)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

テーマ：四肢末梢循環障害と脳梗塞をきたした50歳代女性
臨床担当）国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科　原田　恵実
病理担当）国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長　村山　寿彦

「入院3ヶ月前に左足先に皮膚の色調変化を認めた。入院2ヶ月前に右下肢に力が入らなくなり、近医の頭部MRIで多発性散在性脳梗塞が認められ入院となった。その後、下肢の末梢循環不全の症状が悪化し当院に紹介入院となった。」
＊臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第218回　初期治療講座（会員制）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2008年1月26日(土)15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

「腰痛の診断と治療」　座長　八代市医師会長　林　邦雄
1．椎間板ヘルニアと脊椎管狭窄症を中心に　国立病院機構熊本医療センター整形外科医長　橋本　伸朗
2．骨粗鬆症を中心に　鶴上整形外科・リウマチ科院長　鶴上　浩

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

2008年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修ホール	会議室	その他
4日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
7日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
8日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
9日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
10日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
11日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
12日(土)		15：30～17：30 熊本地区核医学技術懇話会	
15日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
16日(水)	**19：00～21：00 第60回 特別講演 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］ 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 「悪性リンパ腫に対する治療開発の動向」 国立病院機構名古屋医療センター院長 堀田 知光**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
17日(木)	**19：00～20：45 第77回 三木会 （糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会） ［日本医師会生涯教育講座3単位認定］ ［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］**	19：30～21：00 有病者歯科医療研究会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
18日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
19日(土)	**8：50～18：15 第13回 国立病院機構熊本医療センター医学会（第1日目）**		
20日(日)	**9：00～12：20 第13回 国立病院機構熊本医療センター医学会（第2日目）**		
21日(月)	**19：00～20：30 第108回 月曜会（内科症例検討会） ［日本医師会生涯教育講座3単位認定］**		8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
22日(火)	18：30～20：30 血液研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図） 19：00～21：00 小児科火曜会	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
23日(水)	**13：00～17：00 平成19年度 院内感染対策研修会 （国立病院機構）（第1日目） 19：00～20：30 第89回 総合症例検討会（CPC） ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］ 「四肢末梢循環障害と脳梗塞をきたした50歳代女性」**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
24日(木)	**9：00～17：00 平成19年度 院内感染対策研修会 （国立病院機構）（第2日目）** 18：30～21：00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
25日(金)	**9：00～17：00 平成19年度 院内感染対策研修会 （国立病院機構）（第3日目）**		8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
26日(土)	**15：00～18：00 第218回 初期治療講座《会員制》 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］ 座長 八代市医師会長 林 邦雄 「腰痛の診断と治療」 1．椎間板ヘルニアと脊椎管狭窄症を中心に 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 橋本 伸朗 2．骨粗鬆症を中心に 鶴上整形外科・リウマチ科院長 鶴上 浩**		
28日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
29日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
30日(水)	19：30～21：00 臨床口腔外科研究会		17：00 消化器疾患カンファレンス C
31日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～20 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M

（図）図書室　C 病院本館2階カンファレンス　手 手術室控室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸1番5号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）